
多在意済

ハト

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

多在意済

【Nコード】

N 8 7 7 3 K

【作者名】

ハト

【あらすじ】

文学家を志す多在意済ダサイイズムが、その模倣となる師として選んだのは李徴であった。中島敦の書にてこの偉大な詩人を知った彼は、その日より師と同じ高みに登るべく、修練を開始したのである。

文学家を志す多在意済が、その模倣となる師として選んだのは李徴であった。中島敦の書にてこの偉大な詩人を知った彼は、その日より師と同じ高みに登るべく、修練を開始したのである。

手始めに彼は、手当たり次第の動物園へと赴き、一日中檻の虎を眺めることにした。朝の開門から閉門の直前まで、ただ磁つと猛獣を見つめる彼の醜姿は多くの者を不快にさせたが、しかし彼はそれを半年ほど続けた。

次に、大きな鏡を買うつと、その前で目に焼き付けた獣の動きを模倣することに努めた。彼の不摂生で膨らんだ身体は、黄風のように駆けることは出来なかったが、しかし王のように寝そべる姿だけは虎その物であった。それに至るまでに半月を要した。

最後の生き物を喰らう段は少し多在を躊躇させたが、しかし李徴への尊敬の念が蛙を貪ることを可能にしたのは、開始から僅か半月後のことであった。

さて、これにて多在は一匹の虎となることが出来た。あとは発狂するのみであるがこれが中々難しい。自身を惑わしてくれる薬も、溺れるのかという程の酒精も、彼を壊すことは出来なかった。飢餓などの極限に置かれれば人は容易く自壊すると聞いたことがあるが、その様な苦痛を伴う馬鹿な真似をするほど、多在は愚かではない。結局彼を狂わせたものは、いつまで経っても変化しない己の脳髓への怒りと、自身よりも若い作家たちの華々しい栄華への嫉妬であった。

狂人となった多在は、恐らくその足で山へと入って行きたかったに違いないが、そうなる前に警察に捕まることとなった。罪状は恐らく覚せい剤取締法への違反であるが、それが判るほど多在の頭は

複雑ではなくなっていた。警官がペンを差し出して自身の名前を書けと言っているが、それすら多在には理解できない。「名前」という言葉は判る。しかし「書け」とはどのような意味であっただろうか、なるほど目の前の男が握っている物がそのための道具らしいが、どのように使うのであろうか。多在はただただ困惑するばかりである。

（後書き）

書き終わったあと森見の山月記を後輩から紹介されて、読後自身の文才にがっかりしました今日この頃。

5分大祭に向けての長編もあらかた出来たので、次はショートショート以外に挑戦したいと思います。

それでは、ご意見ご感想等よろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8773k/>

多在意済

2010年11月22日22時41分発行